

# 児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2024年 2月 15日

事業所名 こどもサポート教室「きりり」宇都宮海道校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		お子様の特性に合わせた環境作りを心掛けている	利用者によって特性も様々なので、担当する指導員や同じ時間帯の利用者同士の組み合わせなども配慮し対応している
	②	職員の配置数は適切である	○		余裕のある人員配置で支援を行うことができている	今後も適切な基準人員を満たした運営をおこなっていく
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		幼児用便座設置し、小さいお子様でも安心してトイレが使えるようにしている	外階段が急なため、階段上にマットを敷き滑りにくくしている
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		掃除、消毒については毎日行っている。空気清浄機の清掃も定期的に行っている。お子様の興味を引く掲示物や制作物も増えた	下の階が美容室の為、床の騒音尚がないようにマットなどを敷くような工夫をしている。環境面で活動にある程度制限がでくることが課題
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		定期的に支援について話し合う場を作り、支援内容やその他業務について共有と振り返りができている	目標設定と振り返りに関しては、社内の業績評価シートを活用しながら、定期的の上長との面談を実施している
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者様からのご意見（苦情等も含む）があった時には全体で共有し原因と対策について検討する体制がつけられている	日頃の保護者様とのコミュニケーションにおいて、ご意見頂いた事に対しては真摯に受け止め対応していく
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HP上での公開と事業所内でファイル保管をし、いつでもご確認頂けるようにしている	ご意見頂き改善した部分は、ご利用者様、及び保護者様に周知をしていく
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		評価を受け、その結果をもとに職員全体で見直し、改善に取り組んでいる	運営面に関する定期的な指導を受け、適切な運営を目指している
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に発達研究所が主体となる研修が行われ、参加の機会も得られている	事例検討やテーマ研修など複数の研修形態の中で、より事業所の課題に即した内容となるよう検討していく
適切な支援	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		支援計画立案の為に面談を行い、保護者様のニーズの聞き取りや支援の提案をしながら進めている	アセスメントシートを療育に活かす構造を検討していく中で、サービスの質の向上を目指していく
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		毎年、共通のアセスメントシートを用いて、児童の成長について共通認をもって	アセスメントシートに関しては作成頻度なども含め、より支援の質の向上に繋がる形を今後検討していく

の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		初回契約時、またはモニタリング時にご利用者様の現状、保護者様からのご要望、事業所からの見立てを踏まえ、優先的に必要な項目を見極めながら支援計画の立案を行っている	ご利用者様の支援フェーズによって、徐々に地域支援の必要なケースが出てくる。必要な時に適切な地域資源を活用していきけるように、日頃から地域連携を心掛けていく
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画に基づいて短期課題を設定し、細かな支援ができるよう取り組んでいる	お子様、保護者様、職員の三者間でどのような目的・目標で療育を行っていくか定期的に確認をしている
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		プログラムごとにチームに分かれて取り組み、話し合いを経て内容を決定している	定期的に MTG を行い支援内容等の確認や相談が行われている
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		お子様に飽きがでないように様々な教材を使う工夫を行っている	利用者のニーズに対して様々なプログラムを計画、実施しているため、それぞれを中途半端に行ってしまうよう注意する必要がある
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個別療育に加えて、小学校の集団生活に向けた就学準備プログラムも提供している	イベント的な小集団プログラムや、就学準備、SST 等の療育的なプログラムなども希望を募りながら提供している
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		社内の共有ツールを活用し、必要な情報はその都度共有し、全員が把握できるようにしている	利用状況によるところだが、可能な範囲で職員間の共有の場をつくっている
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		社内の共有ツールを活用し、必要な情報はその都度共有し、全員が把握できるようにしている	利用状況によるところだが、可能な範囲で職員間の共有の場をつくっている
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援記録の記入が滞ることのないよう、目安となる期限を決めている	社内で運用している WEB 上での支援記録のツールを活用している。必要に応じて、利用者の記録の取りまとめや、職員間の共有の手段として活用している
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しを判断している	○		毎月該当の利用者のモニタリングを実施している。作成時には、職員間で相談などをして目標を決定している	お子様や保護者様に聞き取りを行い、現状の困り感などを確認した上で個々の支援計画を作成している	
関係機関や保護者との	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		基本的に児童発達支援管理責任者が参加している。場合によっては指導員も同行する	サービス担当者会議の機会はまだまだ少ない。相談支援員など関係者との連携を今後深めていく必要がある
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		学校・幼稚園・保育園へのほうもんや連絡の取り合いにより、情報共有の機会が増えた	保護者様の意向を確認し、関係機関連携を積極的に進めている
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		該当児童なし	

連携	②4	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	該当児童なし	
	②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	お子さんの通っている園と連携して支援を行っている。集団生活の中での困り感を伝えてもらうことで個別支援に繋げたり就学先について話し合う機会を作ることができている	関係機関との連携については保護者様のニーズを確認しながら継続して行っていく
	②6	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	保護者同意の上、必要に応じて就学先の学校に支援記録を提供し様子を共有している	今後、より地域との連携を密にしていく事を目標として行動していく
	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	地域のリハビリセンターの研修等に参加し、学んだことは教室内で共有している	今後より地域の研修や関係機関との連携を進めていく
	②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○	現状、交流をする機会はない	今後より地域の研修や関係機関との連携を進めていく
保護者への説明責任等	②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	積極的な参加は行っていない	地域の情報を把握し、地域との接点を今後も増やしていく
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	FB時に共有する他、事業所内相談支援を行い、お子さんの状況や課題について共通理解を持てるよう関わっている	より短期的な目標設定をし、療育の達成度を分かりやすくするため、支援計画以外の独自のツールを用いて共通理解を図っている
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○	現状、提供するサービスとしてプログラムの機会を持っていない	内部・外部研修を行い、保護者様のニーズを踏まえて対応を検討していく
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	ご契約時、また受給者証の更新時など、保護者様が理解しやすいよう丁寧な説明を心掛けている	保護者様のご不明点、ご質問については、都度丁寧に対応をしていく
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○	個別支援計画の更新時には必ず保護者様の同意のもと、新しい計画書を制定している	お子様一人一人が目指す目標を明確にし、支援方針がご利用者様、保護者様が把握できるように作成を行っていく
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	事業所内相談支援の時間を作り、その中でじっくり話を聞ける環境を作れるよう心掛けている	参加者のニーズに合わせながら、開催頻度も多くできるように企画していく
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	保護者会を実施し、保護者同士で関われる場を作っている。今後も継続していきたい	感染症などの状況に配慮しながら、今後も保護者のニーズを確認しながら保護者会の開催を検討していく
	③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、	○	事業所内におけるご相談事や申し入れについての窓口については契約時にご説明。管理者が中心となり、	保護者様がよりご意見、ご要望などを発信しやすいよう、SNSなども活用しながら整備していく

	相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している			ご要望等については対応している		
③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		イベントのチラシ等を作成し、教室内に掲示したり、LINE や直接のお声がけで周知を行っている	利用者や保護者がより教室からの発信を把握できるよう、ツールを工夫しながら対応をしている	
③8	個人情報の取扱いに十分注意している	○		利用者の個人情報に関しては個別にファイリングし、事務室のロッカー内に保管。また写真撮影に関しては個人情報の同意書での署名と適宜確認を行っている	引き続き、個人情報に関する管理を徹底していく	
③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		絵カードやタブレット教材を使用し、コミュニケーションの幅を広げている	お子様の特性に合わせた伝達手段が選択できるよう、可能な限り教材の整備を行っている	
④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	周辺地域との連携に関しては、いまはまだ機会としては少ない	地域の情報を把握する手段が限られている。今後、どのような媒体から発信があるか確認をしていく	
非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		避難場所や訓練の様子を教室内に掲示し、利用者や保護者に周知している	特に疾患をお持ちのご利用者に関しては、他の利用者の感染症の連絡があったタイミングで、速やかに情報提供を行っている（個人情報に配慮して）
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月、様々な状況を想定した避難訓練を実施している。必要に応じて利用者にも参加頂いている	避難訓練実施後は、その様子などを事業所内に掲示し、他のご利用者が確認できるよう工夫している
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		ご契約時に基本情報シートをお渡しし、疾患や配慮する点についての確認を行っている	有事の際は、提携医療機関との連携を取りながら対応をしている
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	食事の提供は行っていない	今後、提供する場合は内部のマニュアルに沿って対応していく
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		危険を感じたケースがあった場合、速やかに報告書を作成し、全体への共有と再発防止に役立っている	ヒヤリハットの報告、及び事後対応について（お子様、保護者様への対応等も含め）上長に報告し、必要な指示を受けている
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会の方針に沿って、伝達講習や事例検討を行っている	今後、委員会が中心となりより具体的な事例検討や、環境面における予防策などについて検討をしていく
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		権利擁護委員会の方針に沿って、伝達講習や事例検討を行っている。身体拘束に関する事項については、個別支援計画に記載している	虐待防止と同様、今後より具体的な事例検討や環境面における予防策などについて検討をしていく

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

## 児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2024年 2月 15日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」宇都宮海道校 保護者等数（児童数）：9名 回収数：8名 割合：89%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	7	1			机にむかう勉強だけでなく縄跳びやトランポリン等もやってくれるから	支援スペースに関してはパーテーションなどを使い、お子様が活動する場所を把握しやすい環境作りを行っている。また、クールダウンとして相談室スペースなども活用している
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	7			1	きらりの活動以外の事も相談するとアドバイスをくれるから	適正な基準人員を満たした勤務体制で運営をしていく。また専門性に関しては定期的な研修を受けることで、事業所全体の専門性の向上を目指していく
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	7	1			資格で次に何をやるかなど示してくれるため、子どもも理解して次の活動に取り組んでいると思うから	賃貸物件の為、建物の改修等については管理会社と要相談。ご意見、ご要望に関しては真摯に受け止め、可能な範囲で対応を行っている
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	8				上記と重複するが身体を動かす活動をするときはその空間を設けてくれるから	様々な年代や特性のお子様を迎え入れることができるよう、環境面については定期的に改善している
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	8				子どもの難易度に合わせてくれているし、親の取り入れてほしい課題もとりにいれてくれるから	個別支援計画については、事前にお子様、保護者様の要望を確認し、その上で事業所としての見立てを行っている
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7			1		必要な時に適切な地域資源を活用していけるように、日頃から地域連携を心掛けていく
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	8				フィードバックの時支援計画に沿った支援が行われていることを確認できるから	個別支援計画に沿った療育を提供している。また、短期的な目標到達度を確認する為、独自のツールを運用しお子様や保護者様との共通理解を図っている
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	7			1	ひらがなの練習一つとってもなぞり書き、タブレット、線つなぎなど様々な工夫をしているから	個別支援計画の内容に則り、お子様の成長過程において、その都度適切な

							プログラムを提供できるようにしている
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	4	1	3		今後、ご利用様のニーズを踏まえて検討していく
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	8				契約時に契約書・重要事項説明書の内容をもとに、保護者様の不明点などを確認しながら説明を進めている
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	8				お子様や保護者様のニーズを事前に確認し、ガイドラインの中の支援内容に合った目標を支援計画に反映している
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	7			1	子どもの困った行動について相談すると、このように関わってみたらどうかと具体的なアドバイスをくれるから 事業所内相談支援や保護者会の中で、保護者様の要望を確認しながら対応を進めている
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	8				子どもの変化にすぐに気づいてくれ、以前より集中して取り組んでいる等、できるようになったことを細かい点までみて教えてくれるから 日々変化のお子様の成長に合わせて、保護者様との対話する時間を大切にしている。課題については、すり合わせを行い、必要に応じて支援に取り入れている
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	8				月に1回時間いっぱいまで今悩んでいることなどを聞いて助言をくれるから 支援後のフィードバックや事業所内相談支援の機会を設け、お子様の支援と合わせて保護者支援にも力を入れている
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	2		3	今後のコロナウイルス等の感染状況に配慮しながら、保護者会の開催を定期的に行っていく
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	8				月1回の事業所内相談でこんなことに取り組んでほしい旨を伝えるとすぐに取りかかってくれる。それも、子どものペースに合わせて無理なくしてくれるから 管理者が中心となり、お子様や保護者様のご意見・ご要望についてはできる限り迅速に対応していく
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	8				先生に前話したことを次の回で先生皆さんに伝達されていて同じことを2度説明するということがないから LINEなども活用し、それぞれの生活状況に応じてご要望などを伝えることができる環境を提供している
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	6			2	行事がある時には前もって知らせてくれ、その様子も確認できるから ホームページやSNS等で定期的に事業所からの情報を発信しているので、ご周知頂けるよう工夫をしていく
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	8				漏洩などがないから ご契約時に個人情報の取り扱いについての説明を行い、同意書にサインをいただいている
非常時等	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	8				コロナが流行した時、幼稚園のクラスで感染者が出たら出席できないなど、しっかり対策、説明があったから 各種マニュアルに関してはファイリングしていつでも確認ができるようにしている。また、避難訓練に関しては、事業所内に掲示している

の 対 応	②①	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	6	1	1	実際子どもが訓練に参加しその写真もあるので訓練が行われていることを確認できたから	月ごとにテーマを決めた避難訓練を実施している。また、お子様にも協力頂き、実際の避難を想定した訓練も定期的に行っている
	②②	子どもは通所を楽しみにしているか	8			「きらりでやった」「きらりでできた」「きらりの先生にこれみせる」等、楽しそうに話を子どもがしてくれるから	お子様自身が自信をもって日常生活を送れるようなサポートを今後も行っていく
	②③	事業所の支援に満足しているか	8			子どもは不器用なところがありハサミもなかなかすぐに上手に切るとい事ができず、自信を無くし取り組もうとしなくなるところがあるが子どもの特性を理解し子どものペースで「できた」を経験させてくれるので自信をもつことができていることにととても感謝している	研修等を実施しながら、ご利用頂いているお子様や保護者様の困り感を少しでも軽減できるように、今後も事業所として質の向上が図れるよう努めていく

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。